

郵政民営化委員会（第256回）議事要旨

日 時：令和5年1月20日（金）13:34～14:52

場 所：郵政民営化委員会室（永田町合同庁舎3階）及びオンライン

出席者：山内委員長、関口委員長代理、青野委員、佐藤委員、関委員
（敬称略）

日本郵政グループ労働組合 安達書記長、中熊企画局次長、西政治部長
全国生命保険労働組合連合会 勝田中央執行委員長、金堀中央副執行委員長、
近藤政策局次長
日本郵政株式会社 砂山執行役、馬宮事業共創部担当部長
日本郵便株式会社 杉崎デジタルビジネス戦略部長

1. 議事

- ・株式会社かんぽ生命保険の新規業務の届出に関する関係者からの意見聴取
- ・グループ外企業との連携の推進状況と今後の戦略について

2. 委員会での説明・意見等

○ 株式会社かんぽ生命保険の新規業務の届出に関する関係者からの意見聴取【資料256-1-1～5】

- ① 資料に基づき、日本郵政グループ労働組合、全国生命保険労働組合連合会が意見陳述を行った※。

※ 3団体（在日米国商工会議所、全国郵便局長会、一般社団法人生命保険協会）からは文書による意見提出があった。

② 委員からの意見等

- ・ 資料の最後の方に「大きく失墜した皆さまの信頼、働く者の誇りを取り戻すために」とあるが、具体的にどのような取組をしているのか。
（⇒ （日本郵政グループ労働組合）かんぽ生命の再生に向けて、労使で改善に取り組んでいる。特にマネジメントにおいて募集時に不適正営業が発生しないよう、コンプライアンスのチェックを系統的に出来るよう改善を行っており、現在、不適正営業は発生していない。マネジメントの醸成に向けて、研修と検証を積み重ねており、定期的に会社と意見交換しながら進めている。）
- ・ 戻り率を100%に近づける努力をしているが、他の生命保険会社の商品と比較したときに、かんぽ生命の場合は引き続き低い水準であると認識している。他の生命保険会社との競争関係に大きな影響を及ぼした2014年改定時の再現は困るとの主張であるが、この水準にとどめていても懸念は払拭できないのか。
（⇒ （全国生命保険労働組合連合会）かんぽ生命の場合は、一番良い戻り率ではないと認識しているが、他の生命保険会社の商品と比べて似たような水準となっている。同等の商品性であれば、かんぽ生命の信用力・安心感を背景として、販売拡大・顧客基盤の拡大に繋がるのではないかと懸念している。）

○ グループ外企業との連携の推進状況と今後の戦略について【資料 256-2】

- ① 資料に基づき、日本郵政株式会社より説明。

② 委員からの意見等

- ・ 日本郵政は楽天に約1,500億円出資しているが、非常に大きな出資をしている割には株主としての声が聞こえてこないのではないかと。日本郵政から見た時のシナジーを作り出す努力をどのようにしてきたのか教えてほしい。
（⇒ （日本郵政）①楽天から生まれる物流を当社に取り込むこと、②当社のリ

アルのネットワークと楽天のデジタルのノウハウを結合していくこと、③デジタルのノウハウを「みらいの郵便局」として全国津々浦々の窓口に広げていくこと、この3つの大きな目標に関して、いろいろなレイヤーでの会議体等において、具体的にどのような形で協業効果が出せるのか、様々な切り口で率直な意見交換を日々行っている。）

－以上－

注）議事要旨は事後修正の可能性があることに御留意ください。また、詳細については追って公表される議事録を御覧ください。